

## アモス書

第一章一テコアの牧者の中なるアモスの言 是はユダの王ウジヤの世イスラエルの王ヨアシの子ヤラバアムの世地震の二年前に彼が見されたる者にてイスラエルの事を論るなり 其言に云くニエホバ、シオンより呼號りエルサレムより聲を出したまふ 牧者の牧場は哀きカルメル之巔は枯るニエホバかく言たまふ ダマスコは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らは鐵の打禾車をもてギレアデを打り 四我ハザエルの家に火を遣りベネハダデの宮殿を焚ん 五我ダマスコの關を碎きアベンの谷の中よりその居民を絶のぞきてエデンの中より王の杖を執る者を絶のぞかん スリアの民は虜へられてキルにゆかん エホバこれを言ふ 六エホバかく言たまふ ガザは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らは浮囚をことごとく曳ゆきてこれをエドムに付せり 七我ガザの石垣の内に火を遣り 一切の殿を焚ん 八我アシドドの中よりその居民を絶のぞきアシケロンの中より王の杖を執る者を絶除かん 我また手を反してエクロンを撃ん ペリシテ人の遣れる者亡ぶべし 主エホバこれを言ふ 九エホバかく言たまふ ツロは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らは浮囚をことごとくエドムに付した兄弟の契約を忘れたり 一〇我ツロの石垣の内に火を遣り 一切の殿を焚ん 一 一エホバかく言

たまふ エドムは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼は劍をもてその兄弟を追ひ 全く憐憫の情を斷ち 恒に怒りて人を害し 永くその憤恨をたくはへたり 二 我テマに火を遣り ボツラの一切の殿を焚ん 三 エホバかく言たまふ アンモンの人々は三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らはその國境を廣めんとてギレアデの孕める婦を剖たり 四 我ラバの石垣の内に火を放ち その一切の殿を焚ん 是は戰鬪の日に 吶喊の聲をもて 爲され 暴風の日に 旋風をもて 爲されん 五 彼らの王はその牧伯等と 諸共に 虜へられて 往ん エホバこれを言ふ

第二章一エホバかく言たまふ モアブは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼はエドムの王の骨を焼て 灰となせり 二 我モアブに火を遣り ケリオテの一切の殿を焚ん 三 モアブは 噪擾と 吶喊の聲と 喇叭の音の中に 死ん 四 我その中より 審判長を 絶除き 其の諸の牧伯を之とともに 殺さん 五 エホバはこれを言ふ 四 エホバかく言たまふ ユダは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らはエホバの律法を輕んじ その法度を守らず その先祖等が 従ひし 偽の物に 惑はさる 五 我ユダに火を遣り エルサレムの諸の殿を焚ん 六 エホバかく言たまふ イスラエルは三の罪あり 四の罪あれば我かならず之を罰して赦さじ 即ち彼らは 義者を金のために 賣り 貧者を鞋一足のために 賣る 七 彼らは 弱き者の頭に 地の塵のあらんことを 喘ぎ

て求め柔かき者の道を曲げ又父子共に一人の女子に行て我聖名を汚すハ彼らは質に取れる衣服を一切の壇の傍に敷きてその上に僅し罰金をもて得たる酒をその神の家に飲む九嚮に我はアモリ人を彼らの前に絶たりアモリ人はその高きこと香柏のごとくその強きこと橡の樹のごとくなりしが我その上の果と下の根とをほろぼしたり一〇我は汝らをエジプトの地より携へるのばり四十年のあひだ荒野において汝らを導き終にアモリ人の地を汝らに獲させたり一我は汝らの子等の中より預言者を興し汝らの少者の中よりナザレ人を興したりイスラエルの子孫よ然るにあらずやエホバこれを言ふ二然るに汝らはナザレ人に酒を飲ませ預言者に命じて預言するなかれと語り三視よ我麥束を積滿せる車の物を壓するがごとく汝らを壓せん一四その時は疾走者も逃るに暇あらず強き者もその力を施すを得ず勇士も己の生命を救ふこと能はず一五弓を執る者も立ことを得ず足駛の者も自ら救ふ能はず馬に騎れる者も己の生命を救ふこと能はず一六勇士の中の心剛き者もその日には裸にて逃んエホバこれを言ふ

第三章一イスラエルの子孫よエホバが汝らにむかひて言ところ我がエジプトの地より導き上りし全家にむかひて言ところ此言を聴け二地の諸の族の中にて我ただ汝ら而已を知れりこの故に我なんぢらの諸の罪のために汝らを罰せん三一人もし相會せずば争で共に歩かんや四獅子もし獲物あらずば豈林の中に吼

んや猛獅子もし物を攫まずば豈その穴より聲を出さんや五もし罾の設なくば鳥あに地に張れる網にかからんや網もし何の得るところも無くば豈地よりあがらんや六邑にて喇叭を吹かは民おどらかざらんや邑に災禍のおこるはエホバのこれを降し給ふならずや七夫主エホバはその隠れたる事をその僕なる預言者に傳へずしては何事も爲たまはざるなり八獅子吼ゆ誰か懼れざらんや主エホバ言語たまふ誰か預言せざらんや九アシドドの一切の殿に傳へエジプトの地の一切の殿に宣て言へ汝等サマリヤの山々に集りその中にある大なる紛亂を觀その中間におこなはるる虚遇を觀よ一〇エホバいひたまふ彼らは正義をおこなふことを知ず虐げ取し物と奪ひたる物とをその宮殿に積蓄ふ二是故に主エホバかく言たまふ敵ありて此國を攻かこみ汝の權力を汝より取下さん汝の一切の殿は掠めらるべし三エホバかく言たまふ牧羊者は獅子の口より羊の兩足あるひは片耳を取かへし得るのみサマリヤに於て床の隅またはダマスコ錦の榻に坐するイスラエルの子孫もその救はるること是のごとくならん三萬軍の神主エホバかく言たまふ汝ら聽てヤコブの家に證せよ一四我イスラエルの諸の罪を罰する日にはベテルの壇を罰せん其壇の角は折て地に落べし一五我また冬の家および夏の家をうたん象牙の家ほろび大きな家失んエホバこれを言ふ

第四章一パシヤンの牝牛等よ汝ら此言を聴け汝らはサマリヤ

の山に居り弱者を虐げ貧者を壓し又その主にむかひて此に持  
 きたりて我らに飲せよと言ふニ主エホバ己の聖を指し誓ひて云  
 ふ視よ日汝らの上に臨むその日には人汝らを鉤にかけ汝等の  
 遺餘者を釣魚鉤にかけて曳いださんニ汝らは各々その前なる  
 石垣の破壊たる處より奔出てハルモンに逃往んエホバこれを  
 言ふ四 汝らベテルに往て罪を犯しギルガルに往て益々おほく罪  
 を犯せ朝ごとに汝らの犠牲を携へゆけ三日ごとに汝らの什一  
 を携へゆけ五酔いれたる者を感じ祭に獻げ願意よりする禮物を  
 召てこれを告示せイスラエルの子孫よ汝らは斯するを好むな  
 りと主エホバ言たまふ六 また我汝ら一切の邑に於て汝らの齒  
 を清からしめ汝ら一切の處において汝らの食を乏しからしめ  
 たり然るに汝ら是我に歸らずとエホバ言給ふ七 また我收穫まで  
 には尚三月あるに雨をとどめて汝らに下さずかの邑には雨を  
 降しこの邑には雨をふらさざりき此田圃は雨を得彼田圃は雨  
 を得ずして枯れたりハ一二三の邑別の一の邑に躓めきゆきて水  
 を飲ども飽くことあたはず然るに汝ら是我に歸らずとエホバ言  
 たまふ九 我枯死穀と朽腐穂とをもて汝等を撃なやませりまた汝  
 らの衆多の園と葡萄園と無花果樹と橄欖樹とは蝗これを食へり  
 然るに汝ら是我に歸らずとエホバ言たまふ一〇 我なんぢらの中  
 にエジプトに爲し如く疫病をおこし劍をもて汝らの少き人を  
 殺し又汝らの馬を奪さり汝らの營の臭氣をして騰りて汝らの  
 鼻を撲しめたり然るも汝ら是我に歸らずとエホバいひたまふ一

一 我なんぢらの中の邑を滅すことソドム、ゴモラを神の滅した  
 まひし如くしたれば汝らは焰の中より取りいだしたる燃柴のごと  
 くなれり然るも汝ら是我に歸らずとエホバ言たまふ二 イスラ  
 エルよ然ば我かく汝に行はん 我是を汝に行ふべければイスラ  
 エルよ汝の神に會ふ準備をせよ三 彼は即ち山を作りなし風を  
 作り出し人の思想の如何なるをその人に示しまた晨光をかへて  
 黑暗となし地の高處を踏む者なりその名を萬軍の神エホバと  
 いふ  
 第五章 イスラエルの家よ我が汝らに對ひて宣る此言を聴け  
 是は哀歎の歌なりニ處女イスラエルは仆れて復起あがらず彼は  
 己の地に扑倒さる之を扶け起す者なし主エホバかく言たまふ  
 イスラエルの家においては前に千人出たる邑は只百人のみの  
 こり前に百人出たる邑は只十人のみのこらん四 エホバかくイス  
 ラエルの家に言たまふ 汝ら我を求めよさらば生べし五 ベテル  
 を求むるなかれギルガルに往なかれベエルシバに赴く勿れギ  
 ルガルは必ず虜へられゆきベテルは無に歸せん六 汝らエホバを  
 求めよ 然ば生べし 恐くはエホバ火のごとくにヨセフの家に落  
 くだりたまひてその火これを焼んベテルのためにこれを熄す  
 者一人もあらず七 汝ら公道を茵陳に變じ正義を地に擲つる者よ  
 八 昴宿および參宿を造り死の蔭を變じて朝となし晝を暗くし  
 て夜となし海の水を呼て地の面に溢れさせる者を求めよ 其名  
 はエホバといふ九 彼は滅亡を忽然強者に臨ましむ滅亡つひに

城に臨む二〇彼らは門にありて勸戒る者を惡み正直を言ふ者を  
 忌嫌ふ二 汝らは貧き者を踐つけ麥の膳物を之より取るこの  
 故に汝らは鑿石の家を建しと雖どもその中に住ことあらじ美  
 しき葡萄園を作りしと雖どもその酒を飲ことあらじ三 我知る  
 汝らの愆は多く汝らの罪は大なり 汝らは義き者を虐げ賄賂を  
 取り門において貧き者を推狂ぐ三 是故に今の時は賢き者黙す  
 是惡き時なればなり四 汝ら善を求めよ惡を求めざれば  
 汝ら生べしまた汝らが言ごとく萬軍の神エホバ汝らと偕に在  
 さん五 汝ら惡を惡み善を愛し門にて公義を立よ萬軍の神エホ  
 バあるひはヨセフの遺れる者を憐れみたまはん六 是故に主た  
 る萬軍の神エホバかく言たまふ 諸の街衢にて啼ことあらん 諸  
 の大路にて人哀哉 哀哉と呼ん 又農夫を呼きたりて哀哭し  
 め啼女を招きて啼しめん七 また諸の葡萄園にも啼こと有べし  
 其は我汝らの中を通るべければなりエホバこれを言たまふ八  
 エホバの日を望む者は禍なるかな 汝ら何とてエホバの日を望  
 むや 是は昏くして光なし九 人獅子の前を逃れて熊に遇ひ又家  
 にいりてその手を壁に附て蛇に咬るるに宛も似たり二〇 エホバ  
 の日は昏くして光なく暗にして耀なきに非ずや二 我は汝らの  
 節筵を惡みかつ藐視む また汝らの集會を悦はじ三 汝ら我に  
 燔祭または素祭を獻ぐるとも我之を受納れじ 汝らの肥たる糧  
 の感謝祭は我これを顧みじ三 汝らの歌の聲を我前に絶て汝ら  
 の琴の音は我これを聴じ二四 公道を水のごとくに正義をつぎざ

る河のごとくに流れしめよ五 イスラエルの家よ汝らは四十年  
 荒野に居し間犠牲と供物を我に獻げたりしや三六 かへつて汝ら  
 は汝らの王シクテを負ひ汝らの偶像キウンを負へり 是即ち汝  
 らの神とする星にして汝らの自ら造り設けし者なり二七 然ば我  
 汝らをダマスコの外に移さん 萬軍の神となふるエホバこれ  
 を言たまふ  
 第六章 一身を安くしてシオンに居る者思ひわづらはずしてサマ  
 リヤの山に居る者 諸の國にて勝れたる國の中なる間高くして  
 イスラエルの家に就きしたがはる者は禍なるかなニカルネに  
 涉りゆき彼處より大ハマテに至りまたベリシテ人のガテに下り  
 て視よ其等は此二國に愈るや 彼らの土地は汝らの土地よりも  
 大なるや三 汝等は災禍の日をもて尚遠しと爲し強暴の座を近づ  
 け四 自ら象牙の牀に臥し寢臺の上に身を伸し群の中より羔羊を  
 取り圈の中より犢牛を取て食ひ五 琴の音にあはせて唄ひ噪ぎダ  
 ビテのごとくに樂器を製り出し六 大罇をもて酒を飲み最も貴  
 とき膏を身に抹りヨセフの艱難を憂へざるなり七 是故に今彼等  
 は虜はれて俘囚人の眞先に立て往んかの身を伸したる者等の嗜  
 の聲止べし八 萬軍の神エホバ言たまふ 主エホバ 己を指て誓へ  
 り我ヤコブが語る所の物を忌嫌ひその宮殿を惡む 我この邑と  
 その中に充る者とを付すべし九 一の家に十人遣りをもと皆死  
 ん二〇 而してその親戚すなはち之を焚く者その死骸を家より運  
 びいださんとて之を取あげまたその家の奥に潛み居る者に向ひ

て他になほ汝とともに居る者あるやと言ふとき對へて一人も無しと言ふ此時かの人また言べし黙せよエホバの名を口に擧ること有べからずと二視よエホバ命を下し大なる家を撃て墟址とならしめ小き家を撃て微塵とならしめたまふ三馬あに能く岩の上を走らんや人あに牛をもて岩を耕へすことを得んや然に汝らは公道を毒に變じ正義の果を菌陳に變じたり三汝らは無物を喜び我獨は自分の力をもて角を得しにあらざやと言ふ四是をもて萬軍の神エホバ言たまふイスラエルの家よ我一の國を起して汝らに敵せしめん是はハマテの入口よりアラバの川までも汝らをなやまさん

第七章一主エホバの我に示したまへるところ是のごとし即ち草の再び生ずる時にあたりて彼蝗を造りたまふその草は王の刈たる後に生じたるものなり二その蝗地の青物を食盡しし後我言り主エホバよ願くは赦したまへヤコブは少し争でか立ことを得んと三エホバその行へる事につきて悔をなし我これを罵じと言たまふ四主エホバの我に示したまへる所是のごとし即ち主エホバ火をもて罰せんとて火を呼たまひければ火大淵を焚きまた産業の地を焚かんとす五時に我言り主エホバよ願くは止みたまへヤコブは少し争でか立ことを得んと六エホバその行へる事につきて悔をなし我これをなさじと主エホバ言たまふ七また我に示したまへるところ是のごとし即ち準繩をもて築ける石垣の上にエホバ立ちその手に準繩を執たまふ八而してエホバ

我にむかひアモス汝何を見るやと言たまひければ準繩を見る我答へしに主また言たまはく我準繩を我民イスラエルの中に設く我再び彼らを見過しにせじ九イサクの崇邱は荒されイスラエルの聖所は毀たれん我劍をもちてヤラベアムの家に起むかはん二時にベテルの祭司アマジヤ、イスラエルの王ヤラベアムに言遣しけるはイスラエルの家の真中にてアモス汝に叛けり彼の諸の言には此地も堪るあたはざるなり三即ちアモスかく言りヤラベアムは劍によりて死んイスラエルは必ず虜へられてゆきてその國を離れんと四而してアマジヤ、アモスに言けるは先見者よ汝往てユダの地に逃れ彼處にて預言して汝の食物を得よ三然どベテルにては重ねて預言すべからず是は王の聖所王の宮なればなり四アモス對へてアマジヤに言けるは我は預言者にあらずまた預言者の子にも非ず我は牧者なり桑の樹を作る者なりと五然るにエホバ羊に従ふ所より我を取り往て我民イスラエルに預言せよとエホバわれに宣へり六今エホバの言を聴け汝は言ふイスラエルにむかひて預言する勿れイサクの家にむかひて言を出すなかれと七是故にエホバかく言たまふ汝の妻は邑の中にて妓婦となり汝の男子女子は劍に斃れ汝の地は繩をもて分たれん而して汝は穢れたる地に死にイスラエルは虜られゆきてその國を離れん

第八章一主エホバの我に示したまへるところ是のごとし即ち熟したる果物一筐あり二エホバわれにむかひてアモス汝何を

見るやと言たまひければ熟したる果物一筐を見ると答へしにエ  
 ホバ我に言たまはく我民イスラエルの終いたれり我ふたたび  
 彼らを見過しにせじ三主エホバ言たまふ其日には宮殿の歌は  
 哀哭に變らん死屍おびただしくあり人これを遍き處に投棄ん  
 默せよ四汝ら喘ぎて貧しき者に迫り且地の困難者を滅す者よ之  
 を聴け五汝らは言ふ月朔は何時過去んか我等穀物を賣んとす  
 安息日は何時過去んか我ら麥倉を開かんとす我らエバを小く  
 しシケルを大きく偽の權衡をもて欺く事をなし六銀をもて賤し  
 き者を買ひ鞋一足をもて貧き者を買ひかつ屑麥を賣いださんと  
 セエホバ、ヤコブの榮光を指て誓ひて言たまふ我かならず彼等  
 の一切の行爲を何時までも忘れじハ之がために地震はざらんや  
 地に住る者みな哭かざらんや地みな河のごとく噴あがりんエ  
 ジプトの河のごとく湧あがり又沈まん九主エホバ言たまふ其日  
 には我日をして眞晝に没せしめ地をして白晝に暗くならしめ一〇  
 汝らの節筵を悲傷に變らせ汝らの歌を盡く哀哭に變らせ一切  
 の人に麻布を腰に纏はしめ一切の人に頂を剃しめ其日をして  
 獨子を喪へる哀傷のごとくならしめ其終をして苦き日のごと  
 くならしめん二主エホバ言たまふ視よ日至らんとすその時我  
 饑饉たを此國におくらん是はパンに乏しきに非ず水に渴くに  
 非ずエホバの言を聴ことこの饑饉なり三彼らは海より海とさま  
 よび歩き北より東と奔まはりてエホバの言を求めん然ど之を  
 得ざるべし三その日には美しき處女も少き男もともに渴のた

めに絶いらん四かのサマリヤの罪を指て誓ひダンよ汝の神は  
 活くと言ひまたベエルシバの路は活くと言る者等は必ず仆れん  
 復興することあらじ

第九章一我觀るに主壇の上に立て言たまはく柱の頭を撃て鬪を  
 震はせ之を打碎きて一切の人の首に落かからしめよ其遺れる  
 者をば我劍をもて殺さん彼らの逃る者も逃おほすことを得  
 ず彼らの遁る者もたすからじ二假令かれら陰府に掘くだると  
 も我手をもて之を其處より曳いださん假令かれら天に攀のぼ  
 るとも我これを其處より曳おろさん三假令かれらカルメルの巔  
 に匿るるとも我これを搜して其處より曳いださん假令かれら  
 海の底に匿れて我目を逃るるとも我蛇に命じて其處にて之を咬  
 しめん四假令かれらその敵に虜はれゆくとも我劍に命じて其處  
 にて之を殺さしめん我かれらの上に我目を注ぎて災禍を降さ  
 ん福祉を降さじ五主たる萬軍のエホバ地に捫れば地鎔けその中  
 に住む者みな哀む即ち全地は河のごとくに噴あがりエジプト  
 の河のごとくにまた沈むなり六彼は樓閣を天に作り穹蒼の基を  
 地の上に置ゑまた海の水を呼て地の面にこれを斟くなり其名  
 をエホバといふ七エホバ言たまふイスラエルの子孫よ我は汝  
 らを視ことエテオピア人を觀がごとくするにあらずや我はイ  
 スラエルをエジプトの國よりペリシテ人をカフトルよりスリア  
 人をキルより導き來りしにあらざるや八視よ我主エホバその目を  
 此罪を犯すところの國に注ぎ之を地の面より滅し絶ん但し我

はヤコブの家を盡くは滅さじエホバこれを言ふ我すなはち命  
 を下し篩にて物を篩ふがごとくイスラエルの家を萬國の中に  
 篩はん一粒も地に落さるべし。我民の罪人即ち災禍われらに  
 及ばず我らに降らじと言をる者等は皆劍によりて死ん。其日  
 には我ダビデの倒れたる幕屋を興しその破壊を修繕ひその  
 傾一圯たるを興し古代の日のごとくに之を建なほすべし。而  
 して彼らはエドムの遺餘者および我名をもて稱へらるる一切の  
 民を獲ん此事を行ふエホバかく言なり。三エホバ言ふ視よ日  
 いたらんとすその時には耕者は刈者に相繼ぎ葡萄を踐む者は  
 播種者に相繼がんまた山々には酒滴り岡は皆鎔て流れん。四我  
 わが民イスラエルの俘囚を返さん彼らは荒たる邑々を建なほ  
 して其處に住み葡萄園を作りてその酒を飲み園圍を作りてその  
 果を食はん。五我かれらをその地に植つけん彼らは我がこれに  
 與ふる地より重ねて拔とらるることあらじ。汝の神エホバこれ  
 を言ふ